研究課題　一四～一七世紀における奄美・琉球関係史料の学際的研究

研究経費　二六万四二三〇円（前年度よりの繰越分）

研究組織

　研究代表者　　　村木二郎（国立歴史民俗博物館）

　所内共同研究者　黒嶋敏

　所外共同研究者　荒木和憲（国立歴史民俗博物館）・田中大喜（国立歴史民俗博物館）・池田榮史（琉球大学）・鈴木康之（県立広島大学）・池谷初恵（伊豆の国市教育委員会）

研究の概要

（１）課題の概要

　琉球は明の冊封を受けた一四世紀以降、周辺諸島を軍事的に侵攻していくが、そのうち奄美諸島への侵攻過程については史料的な制約が大きく未解明な点も多い。しかし近年、奄美諸島のうち琉球の侵攻対象となった喜界島では重要な中世遺跡の発掘成果が相次いで報告されており、考古学の見地から琉球側の勢力伸長の過程を跡付けつつある。一方で、当該地域に関する同時代の文献史料は乏しいが、のちの時代に作成された地誌類や絵図といった近世・近代史料のなかに援用しうる歴史情報を持つものが少なくない。  
　そこで本研究では、一四～一七世紀における琉球の侵攻・支配について、喜界島に焦点を定め、考古学・文献史学それぞれの視点から学際的に検討を進めていく。考古学の研究者による、現地調査を主とした当該期の集落の検証と、文献史学の研究者による、史料編纂所が所蔵する関連史料の原本調査と高精細デジタル撮影を主とした比較・解析を行い、双方の研究成果を突き合わせ、成果を公開して「史料の研究資源化」を行うものである。

（２）研究の成果

　二〇二一年度については研究費を執行できず、研究活動を実施できなかったため、とくになし。